侠文庫

三拾一編

錦重堂梓

へ13
3836
13

倭文庫三拾一編

嘉永八年
乙卯孟陽
新刻

上

ヘ13
3836
13

倭文庫

三拾一編

上之巻

万亭應賀作
一壽齋國貞画

江戸人形町通
上州屋重藏梓

釋迦八相倭文庫三拾壹編序

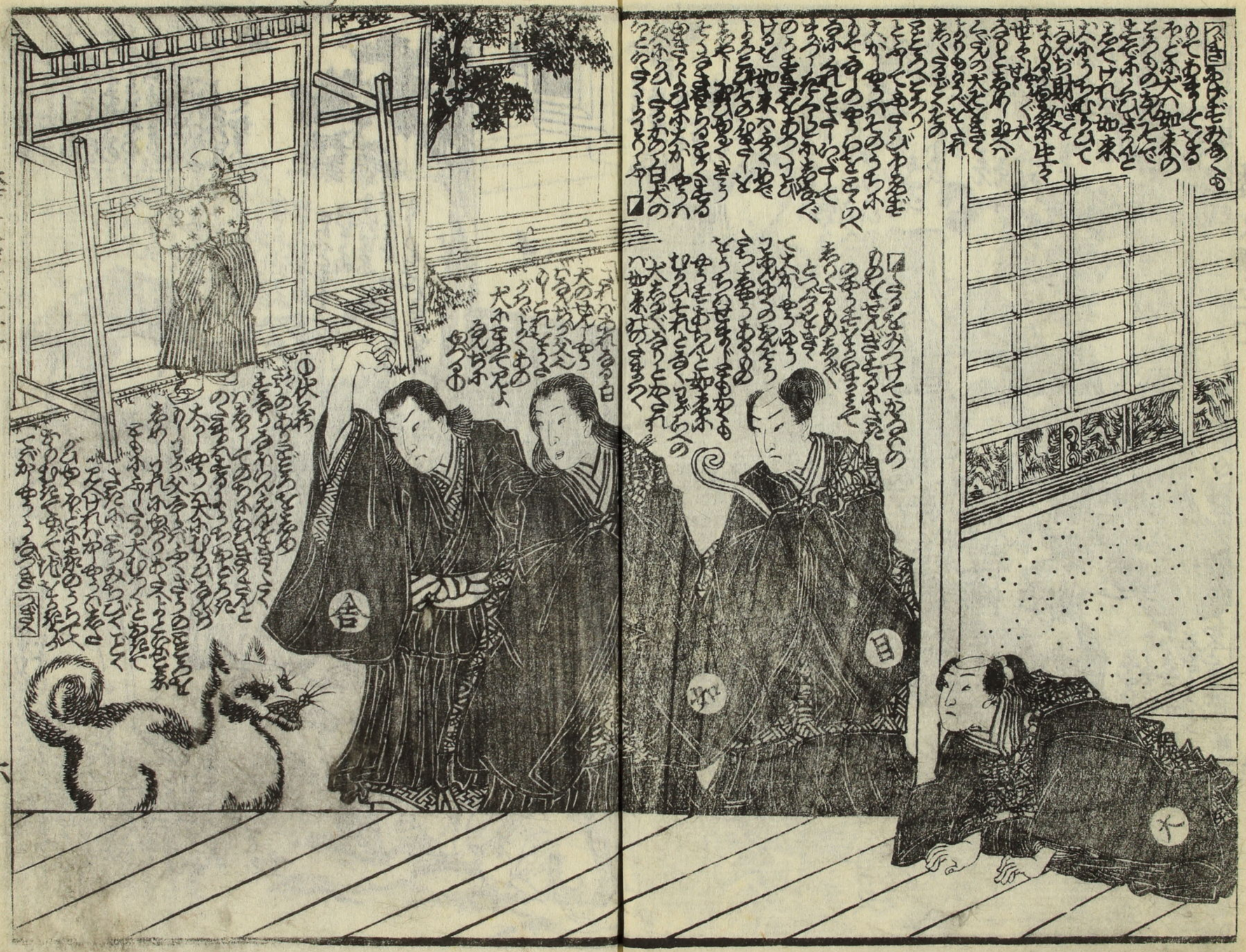
夫貪人の積聚多く得ども厭足を不生無明顛倒の心常に他を侵損せんと念現在の怨憎身を捨て悪道に堕せんとそれ金言あるかあ恐慎むべしとるりされば舍衛國の長者須達が事の諸書に数説ゆゑ小紙に書を挙げ其二三を摸擬して長者の婢女末利夫人と五不男果にちとづき都提の為に摩迦加葉の名を仮そのの稗史も神儒佛道の三をかりんで作出せる本文の面白かるべき巻あるべ是流行を宗とせば只勧善の道を立るゲ故人諸君その素朴なるを見捨ることなれと爾云

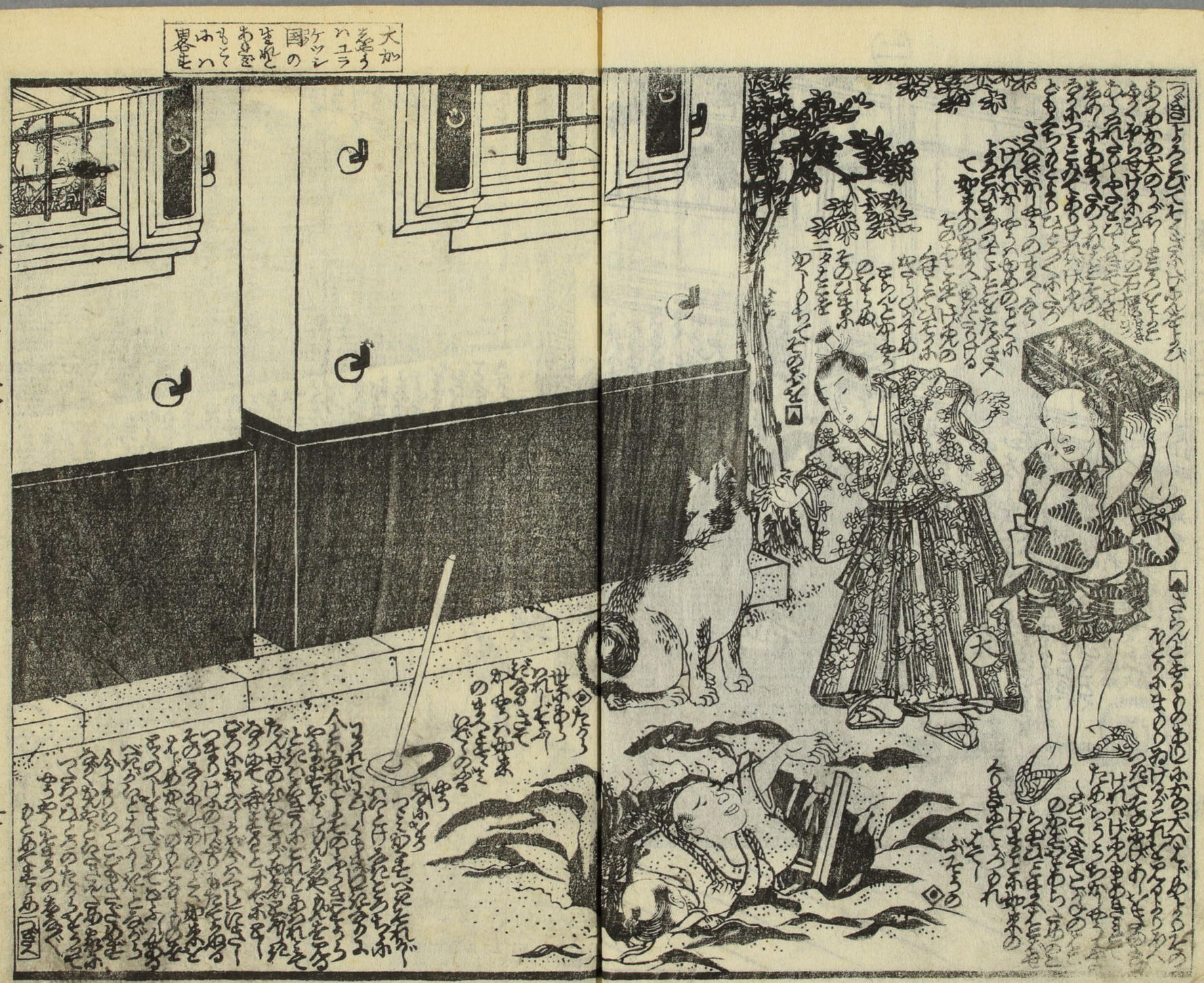
嘉永八乙卯年正月吉辰

万亭應賀誌

如来金衣國の摩訶迦葉
都摩伏の家の藏の黄金を掘せて
須達長者の前世を語りたまふ
須達長者
大迦葉
如来
舍利弗

須達長者の炊女
末利夫人
波斯匿王の后は召れて入内の砌
前世の仇人
五人の扇提婆は玉の輿を舁き


大
目
吉



嘉永八年乙卯春新板目録

倭文庫 三十編 三十一編 三十二編 三十三編 万亭應賀作 一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋 四編 五編 為永春水作 同画

昔語小栗實説 二編 三編 松亭金水作 同画

花山吹百人女郎 初編 二編 柳亭種彦作 同画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編

〈重 繪艸紙本類 人形町 上州屋重藏

万亭應賀作
歌川國貞画
仲夏曲乃立國貞
錦重堂版
下

屋満紙文庫

上重板

七冊

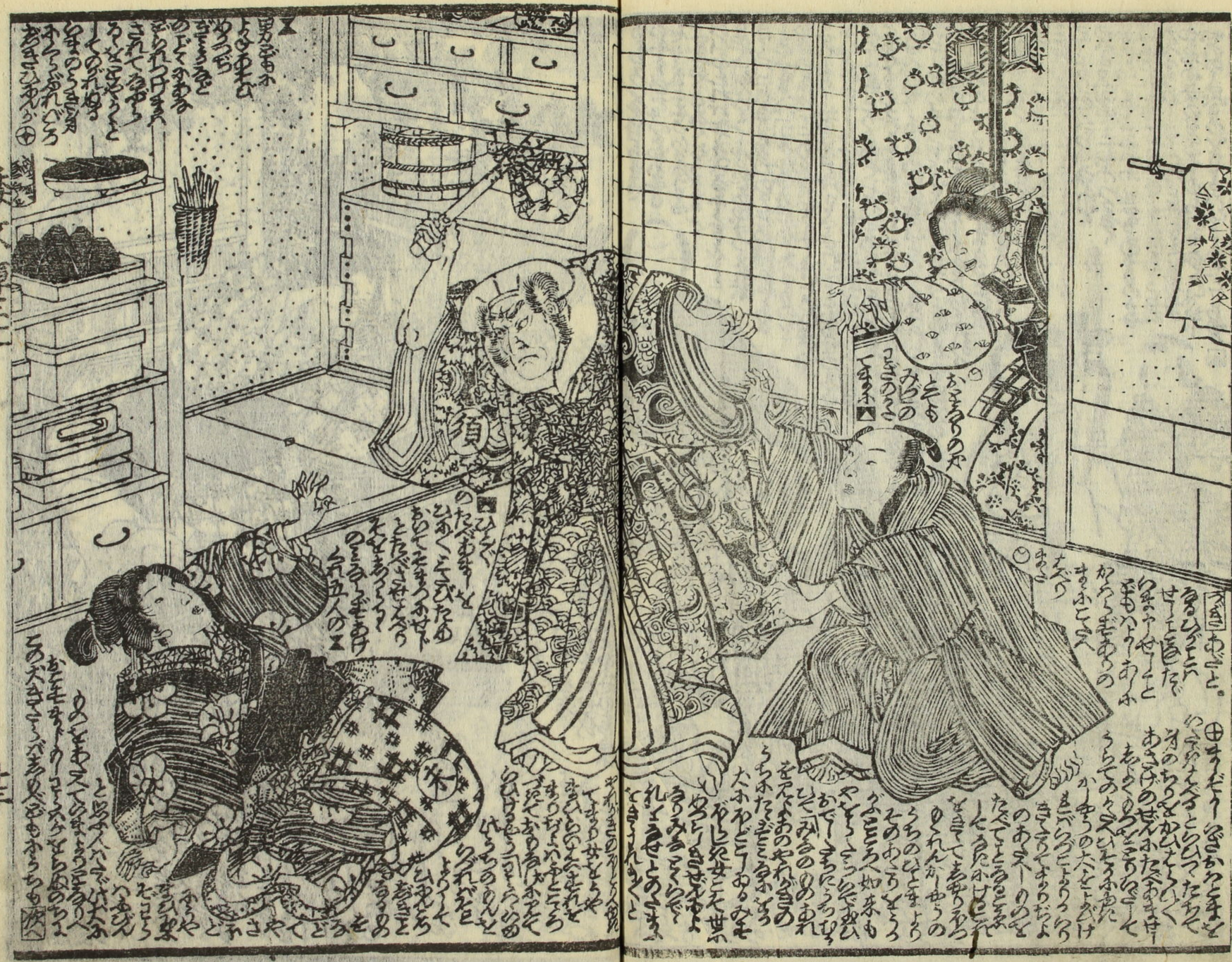
新彫

三拾壱編

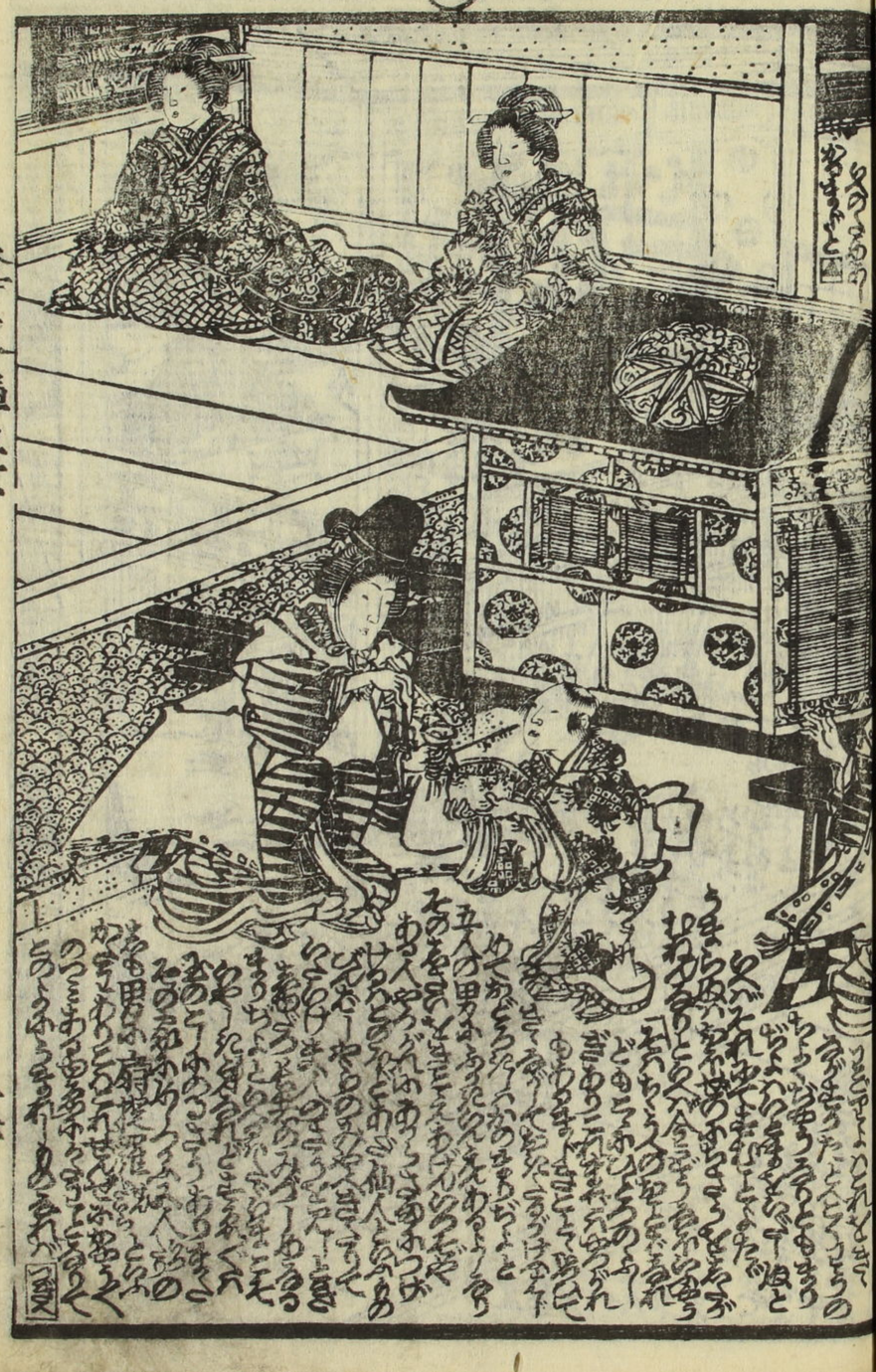
下の巻

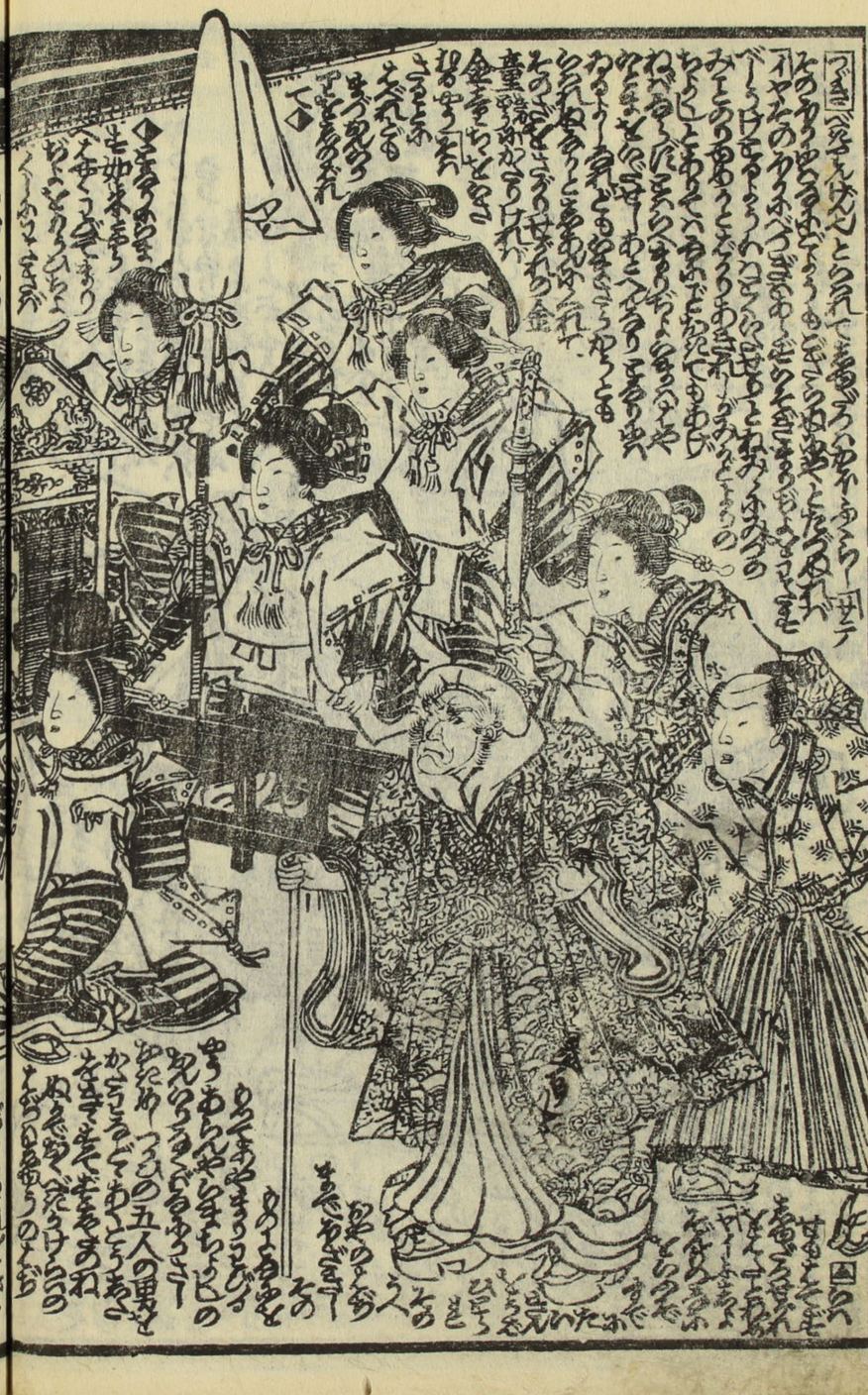
万亭作

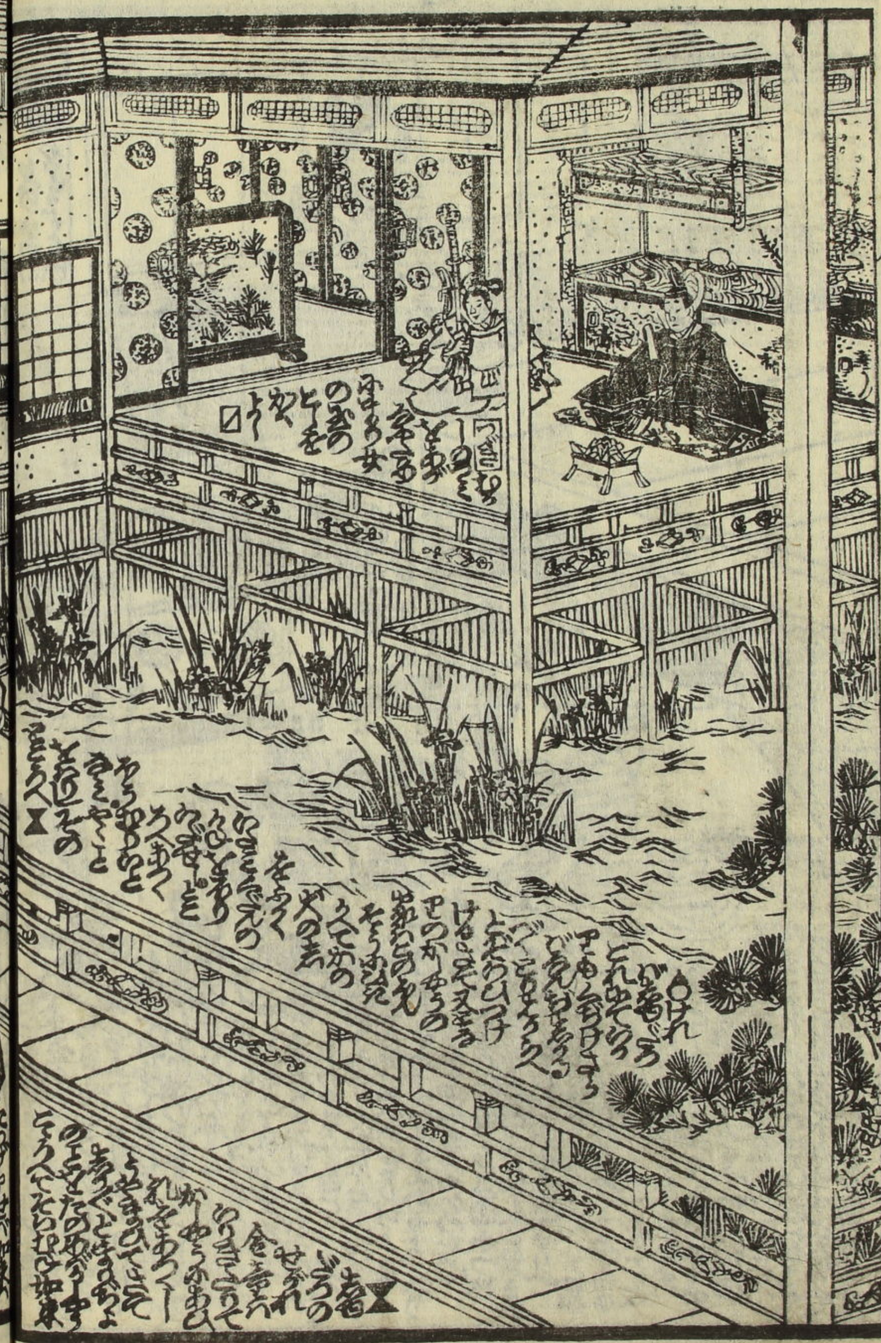
一蕨画


須
朱

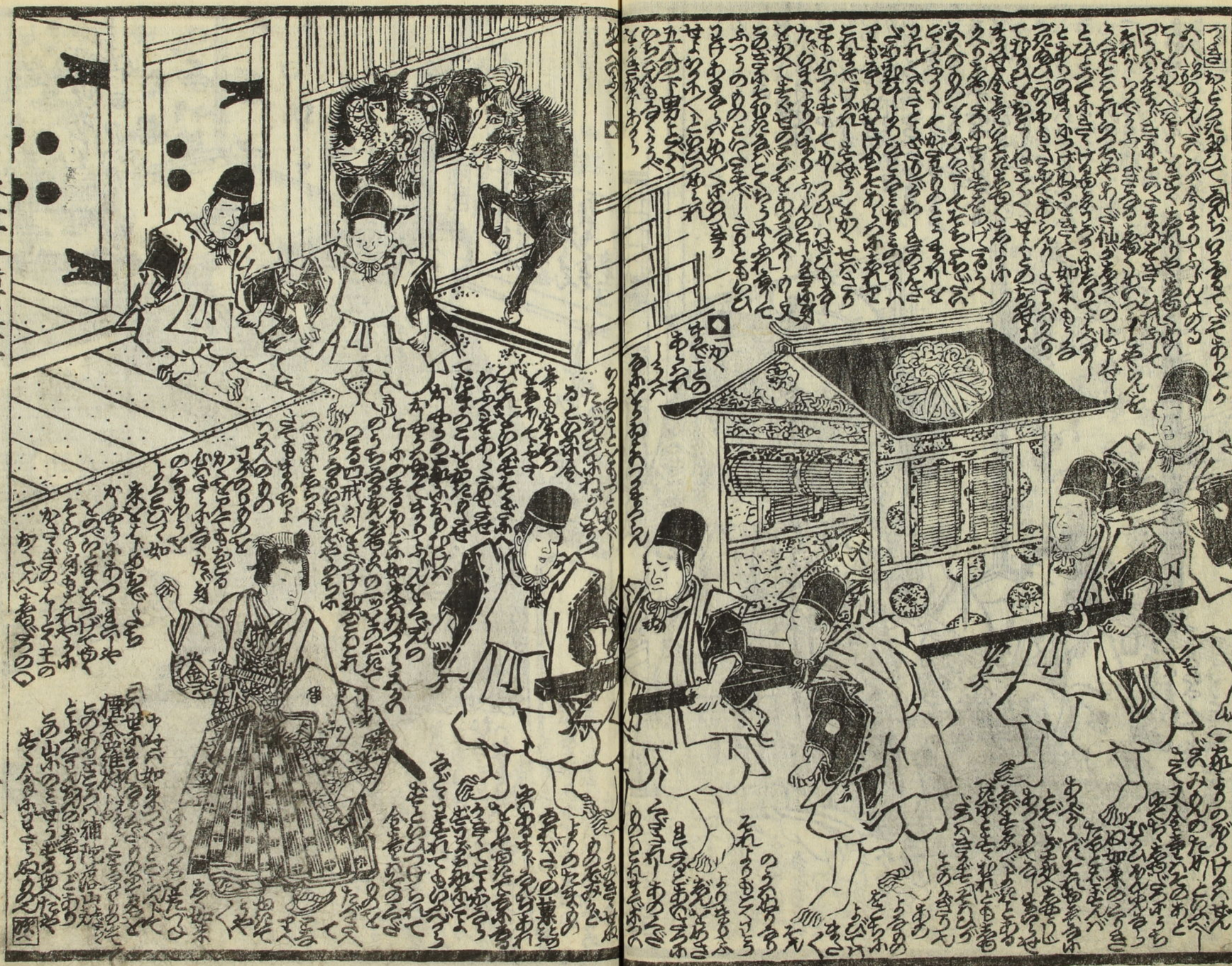
水
須

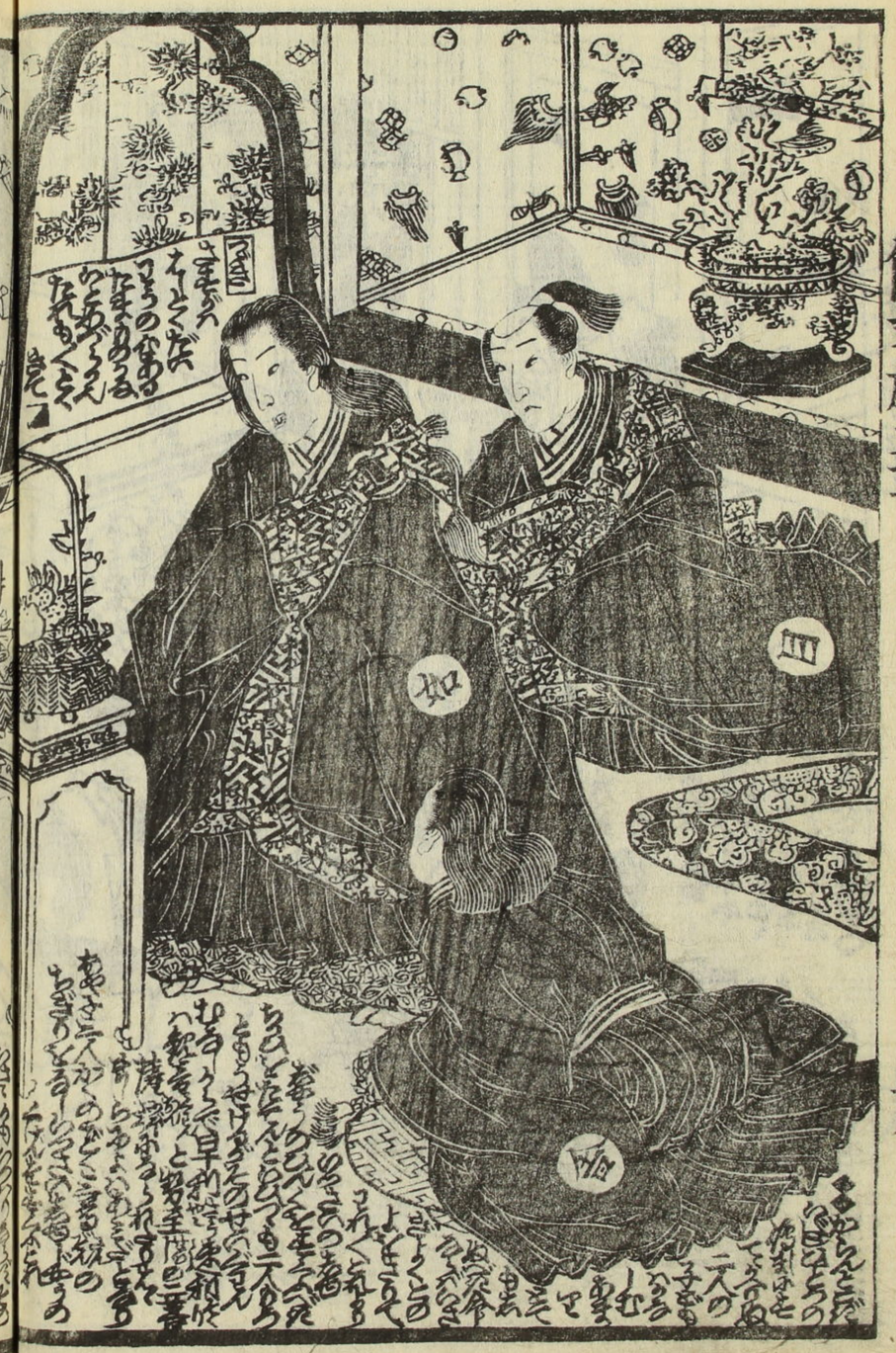


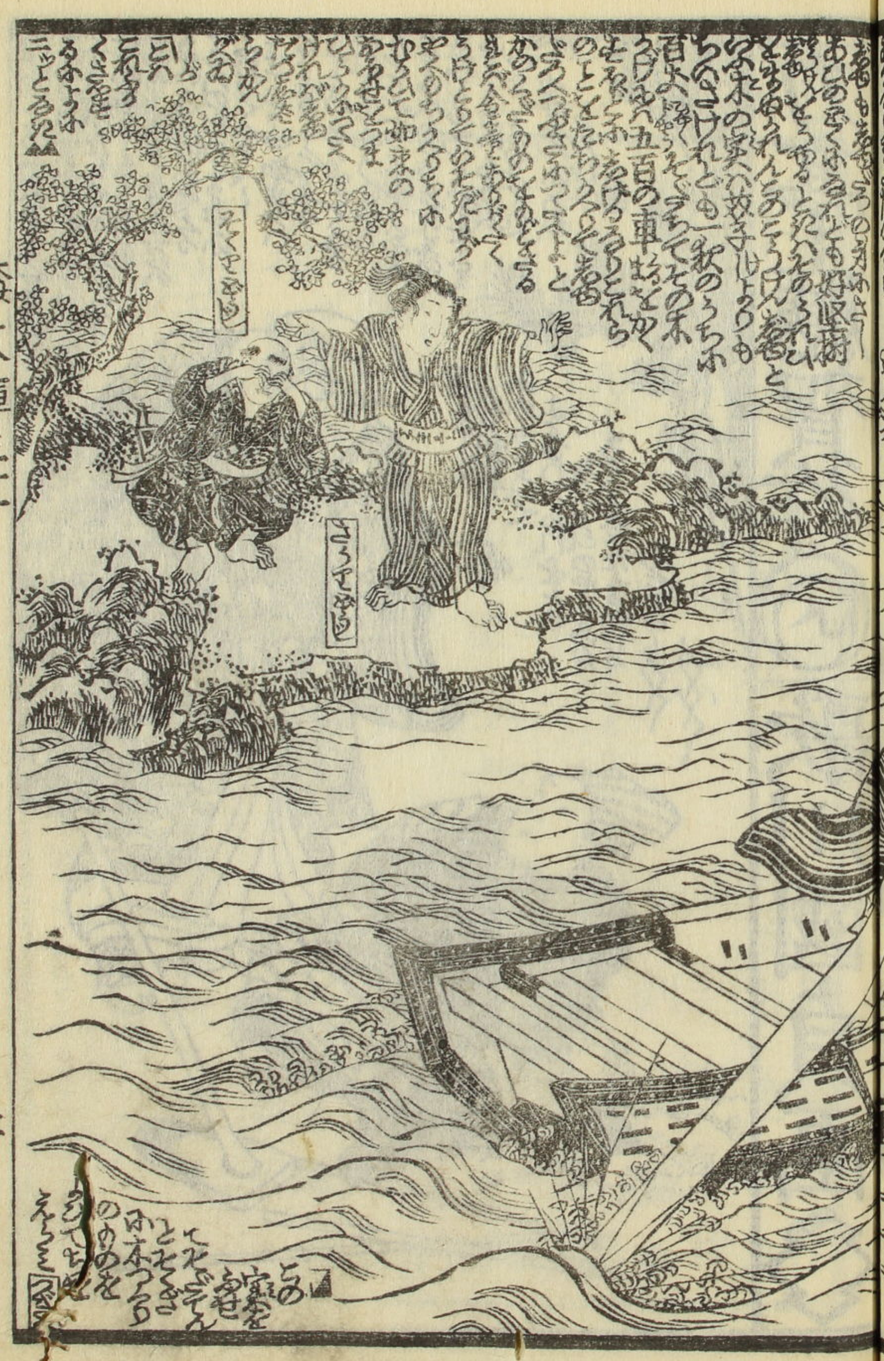




須
金







万亭應賀作 歌川國貞画

嘉永八年乙卯春新板目録

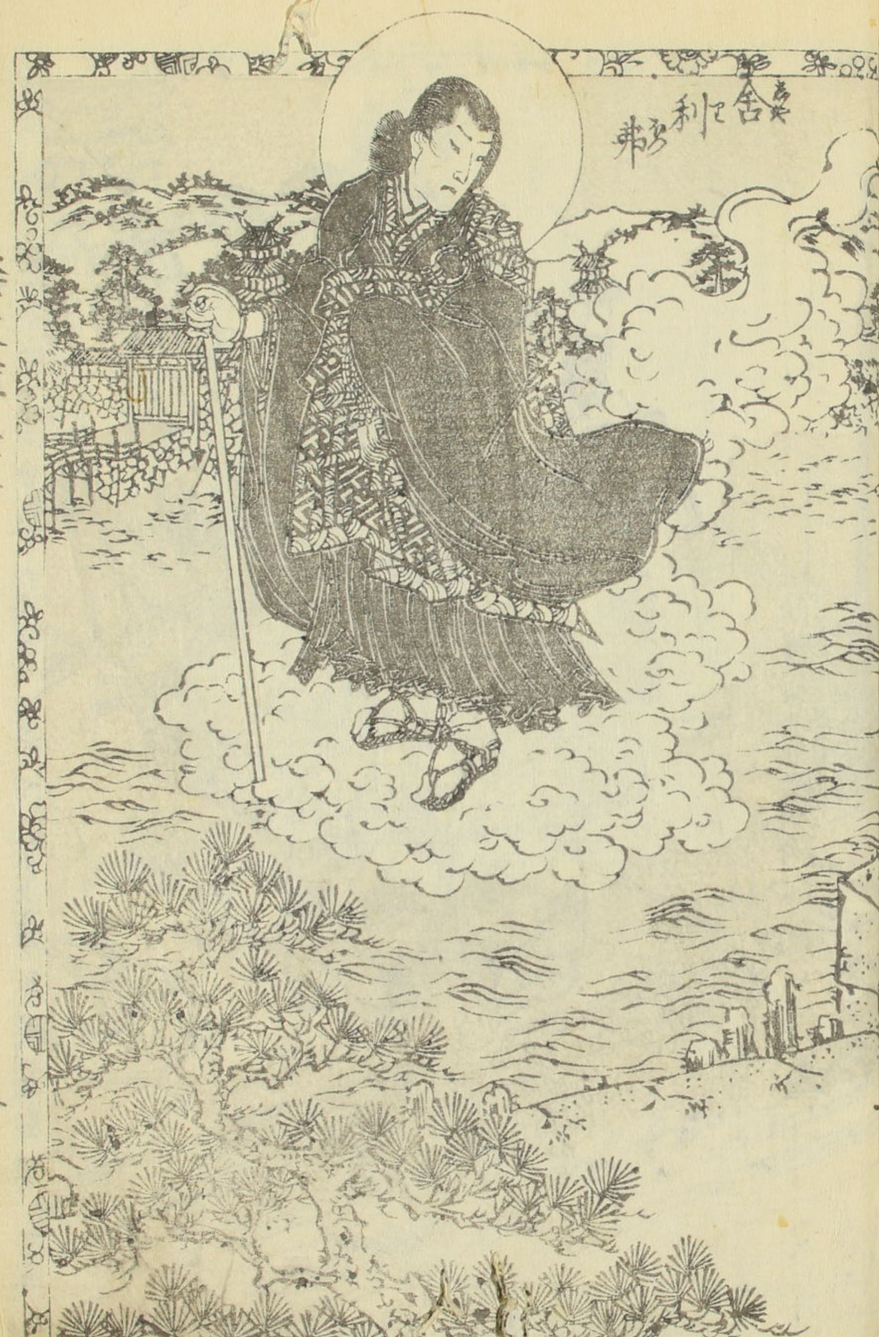
俵文庫出世双六	万亭應賀作 一陽齋豊國画	
春の手遊 将棋双六	同 歌川貞房画	
男女振合 役替双六	当年の恵方より同 極かりろきとあり 一陽齋豊國画	
武家奉公出世双六	同 同	
奥奉公出世双六	同 同	
極上摺 擬百人一首	百枚揃 一陽齋豊國画 一勇齋國芳画	
重榮御江戸繪圖	奉書四枚半續	
端唄さくら の竹	小本上中下の三冊ホウビトウのもうとを あらあらくびホウ ものくさかくうとくろしお をたくさくてけうくるさたくとのかくたり	

万亭應賀作
上

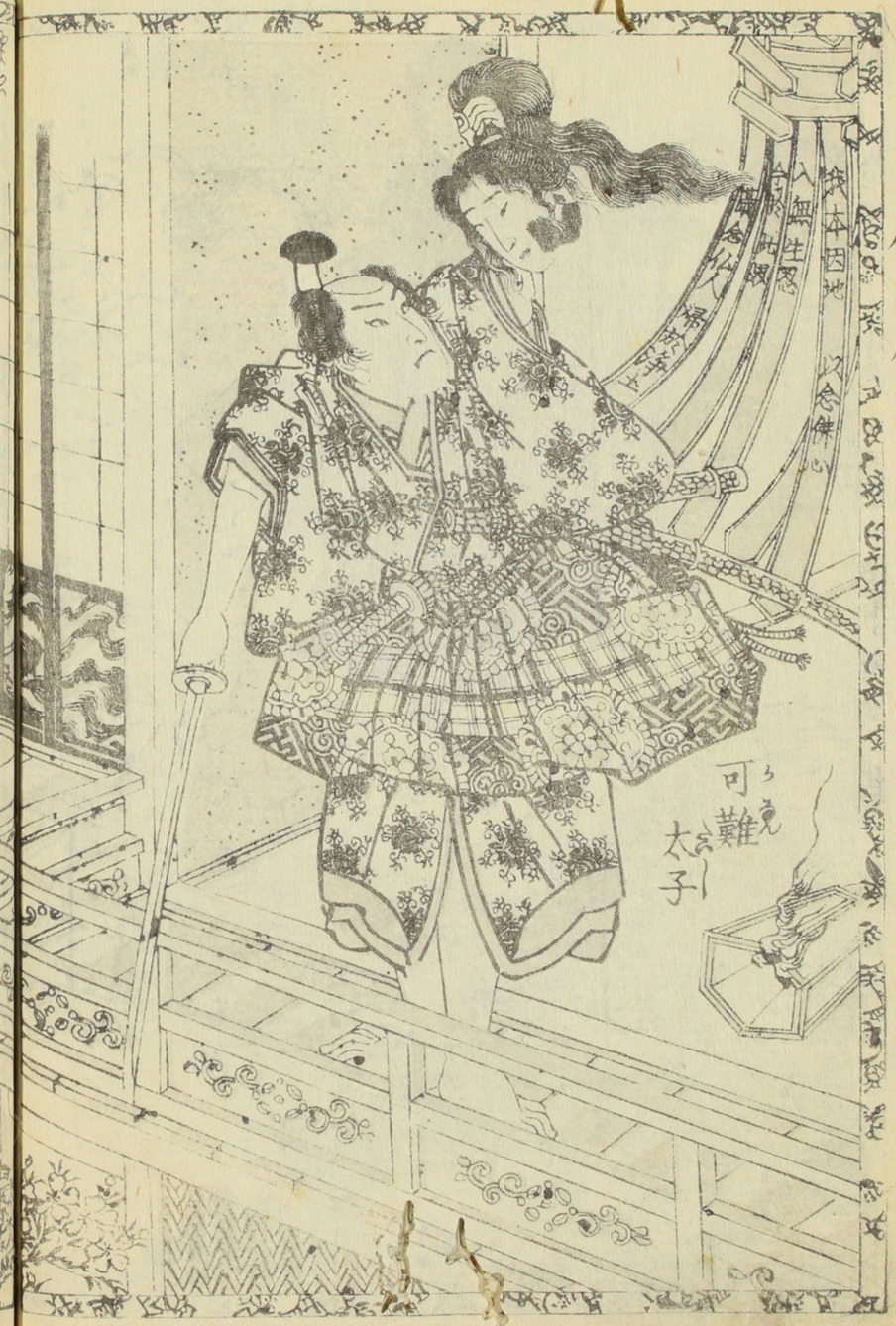
釋迦八相倭文庫三拾二編叙

夫一見於女人不離三悪道結三途業何況於一犯定墮無間獄一ト有ば女人の煩悩の源地獄の使也一度犯れば五百世の間彼ふ隨て六趣ふ輪廻と毒蛇い見ども女人を見ざと又經文ゆも說れうされども婦欲の止がたと一角仙人四目居士大樹仙人抔の說を視つべ凡流轉生死の業只淫欲ふ依ふとそ然うう勇む春の駒の身と損ひ且秋の庶の命を失ふも皆是ふり係れば茲ふ五々の苦厄の業二勢至と婦人と変せ阿難可難の煩悩心と自然と改止せ〻めしよも聊彼感遠と袈裟御前の譚と因ふ終ても亦方便本とそ云まくのこ

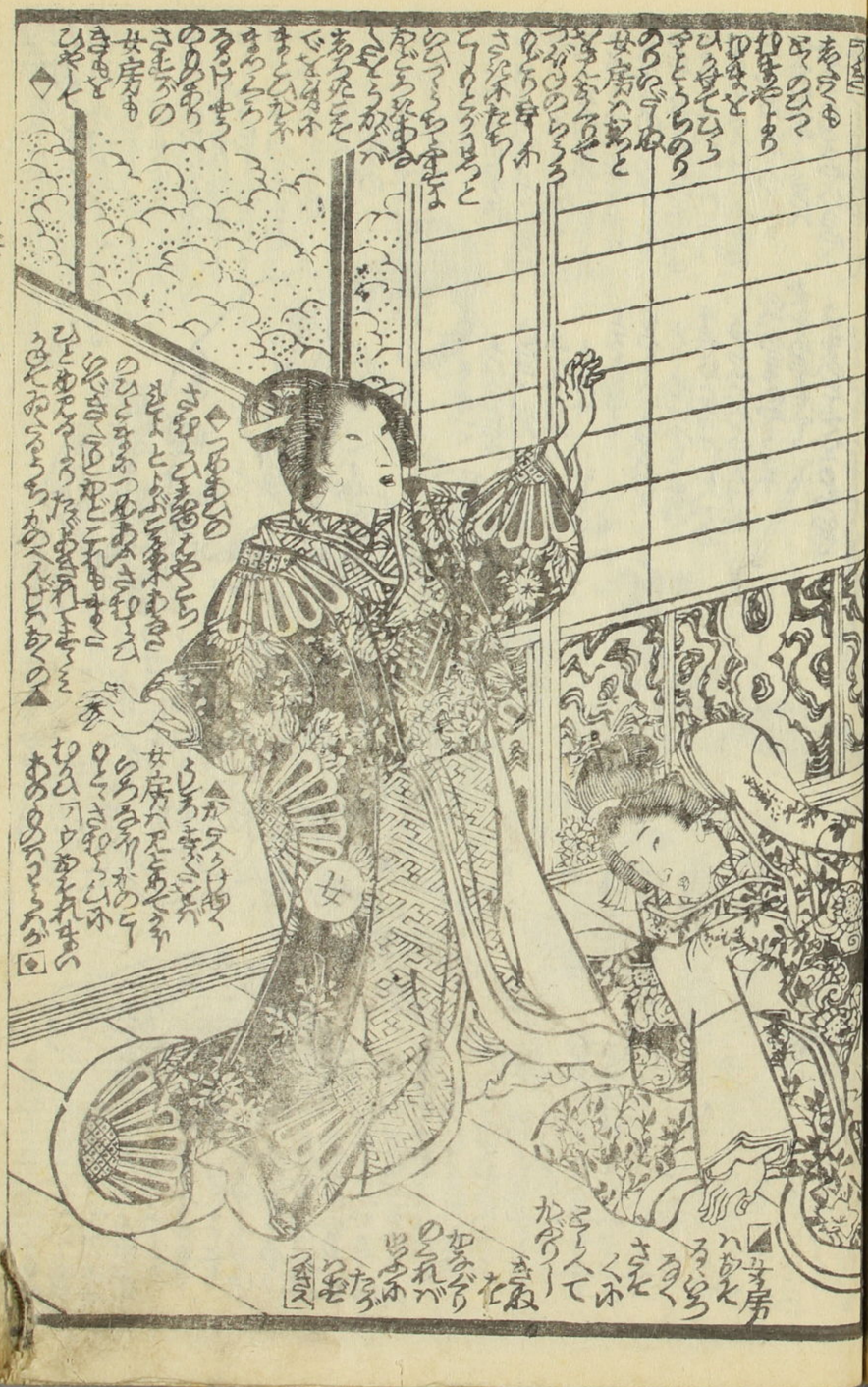
嘉永八乙卯年孟春發行　万亭應賀誌

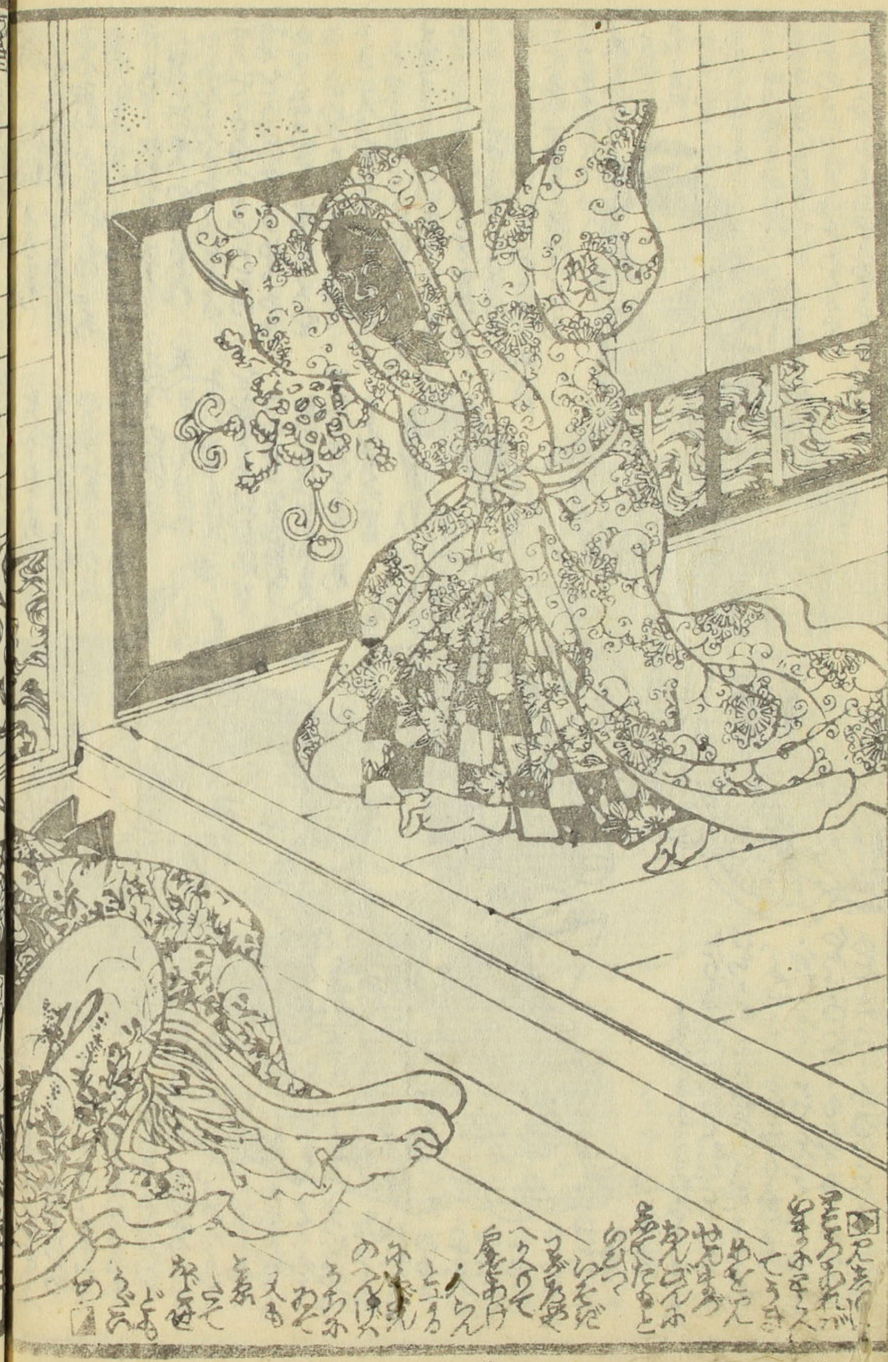

舎利弗

舎利弗尊者
如来の御使ふ
迦毘羅城ふ
来りて
大神変
と顕ます
優陀夷
大臣

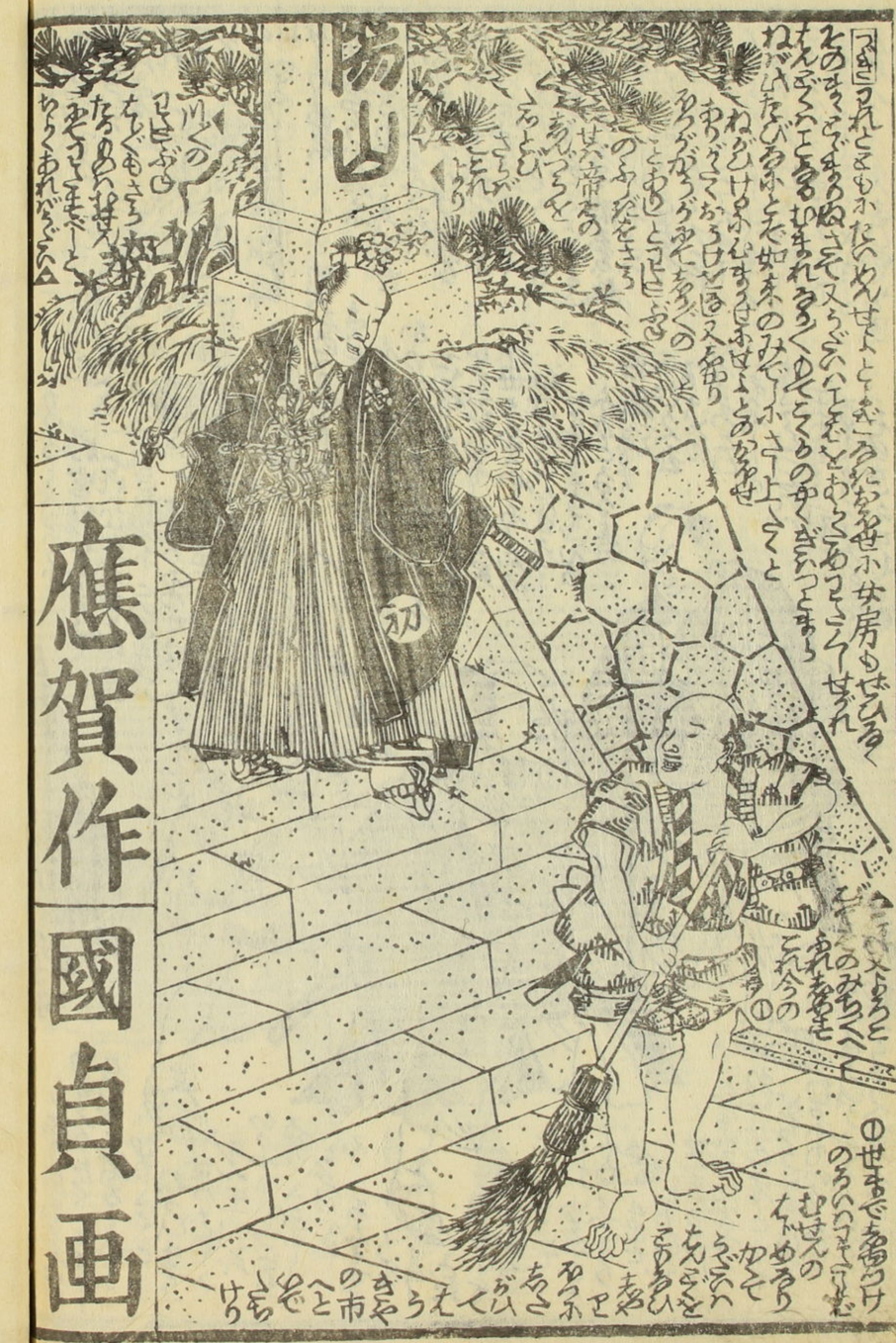


如来の従弟
可難太子
過て
姉
柳華
夫人の
首を
討


女



船



嘉永八年乙卯春新板目録

倭文庫 三十編 三十一編 三十二編 三十三編 万亭應賀作 一陽齋豊國画
重の井菱染別小紋 四編 五編 為永春水作 同 画
昔語小栗實説 二編 三編 松亭金水作 同 画
花山吹百人女郎 初編 二編 柳亭種彦作 同 画
大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續
常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編
〈重 繪艸紙本類 人形町 上州屋重藏

倭文庫三拾編

嘉永八年
乙卯陬月
新刊

歌川國貞画

錦重堂版

下

江戸繁文庫 三十二編

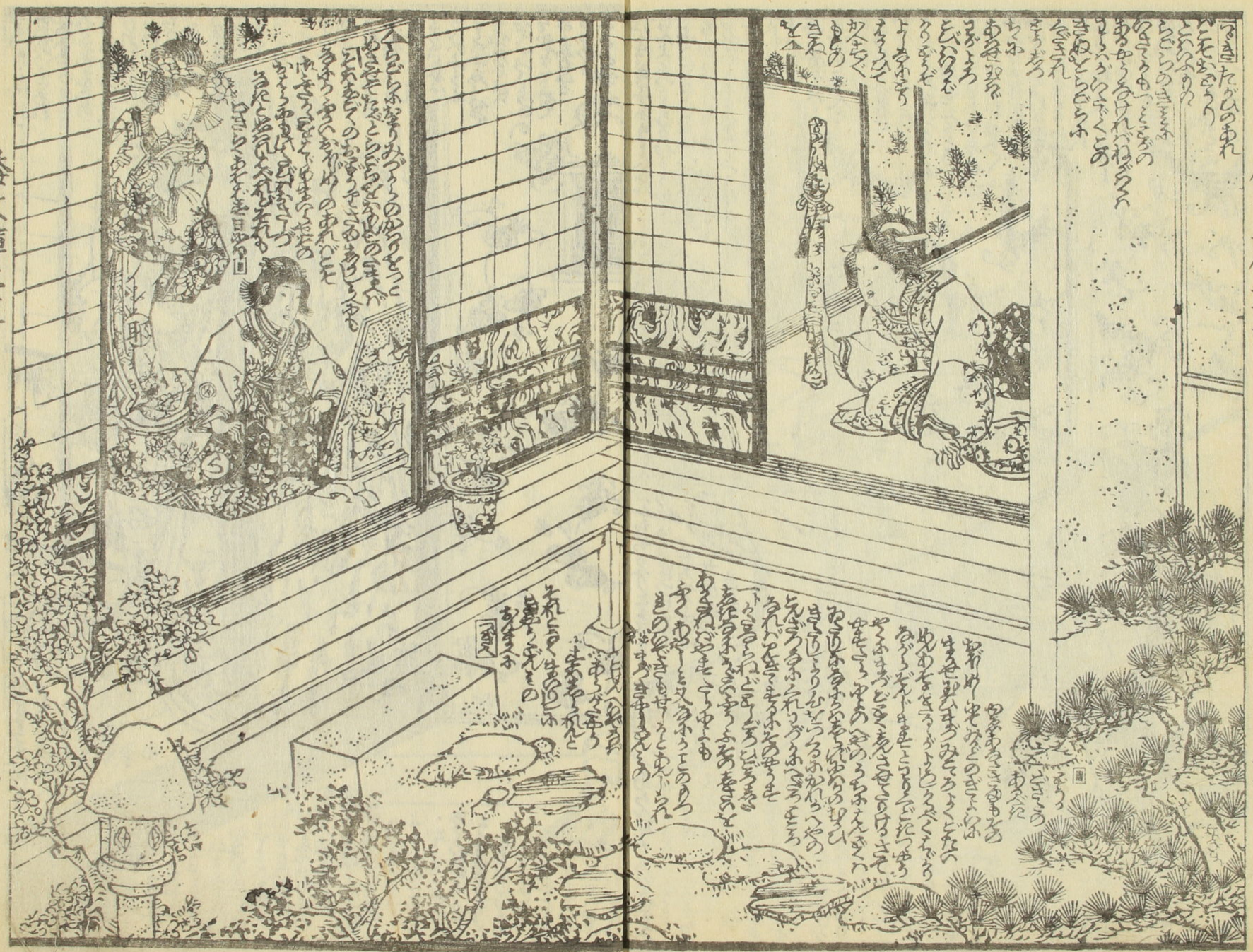
中巻

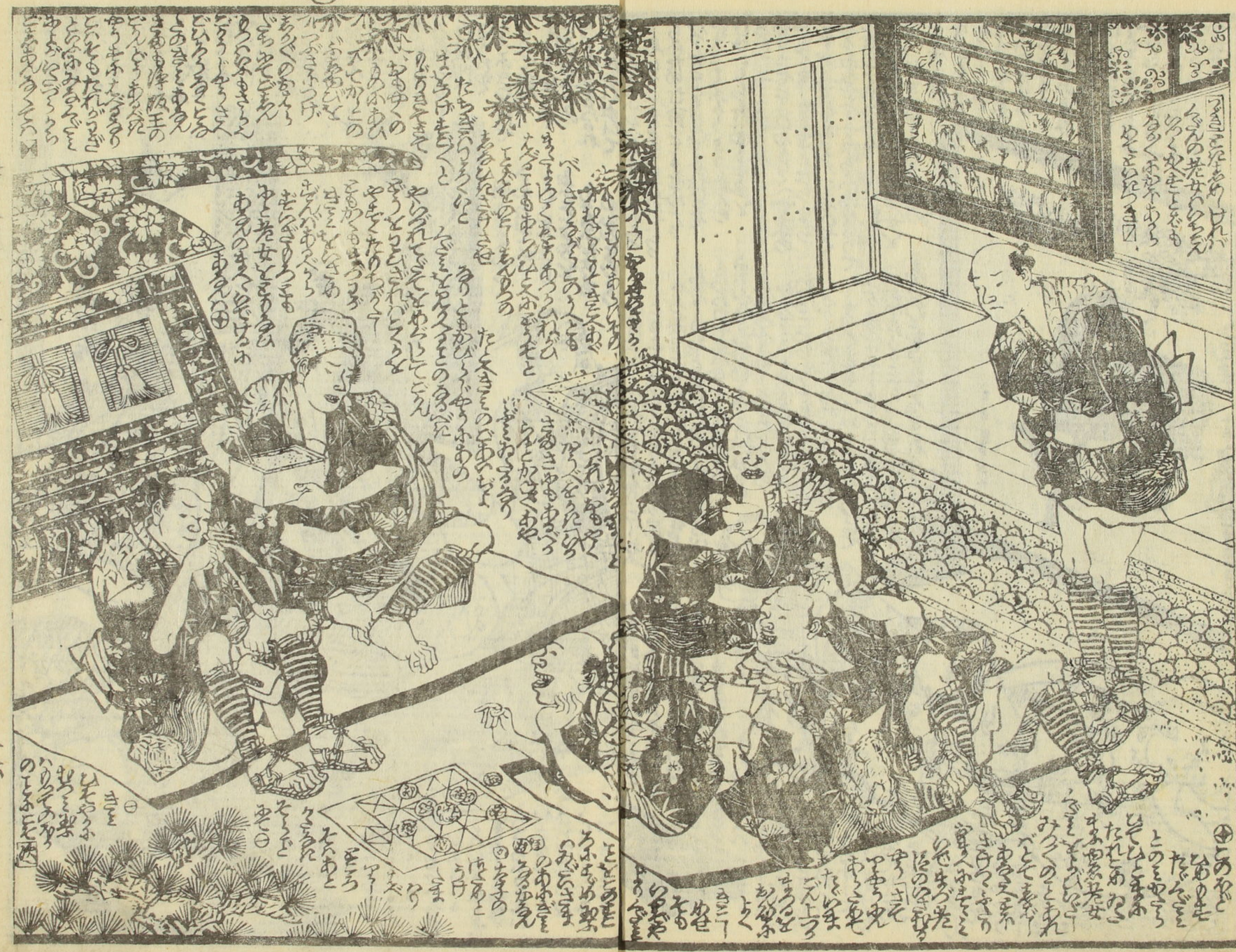
乙卯 彩猶

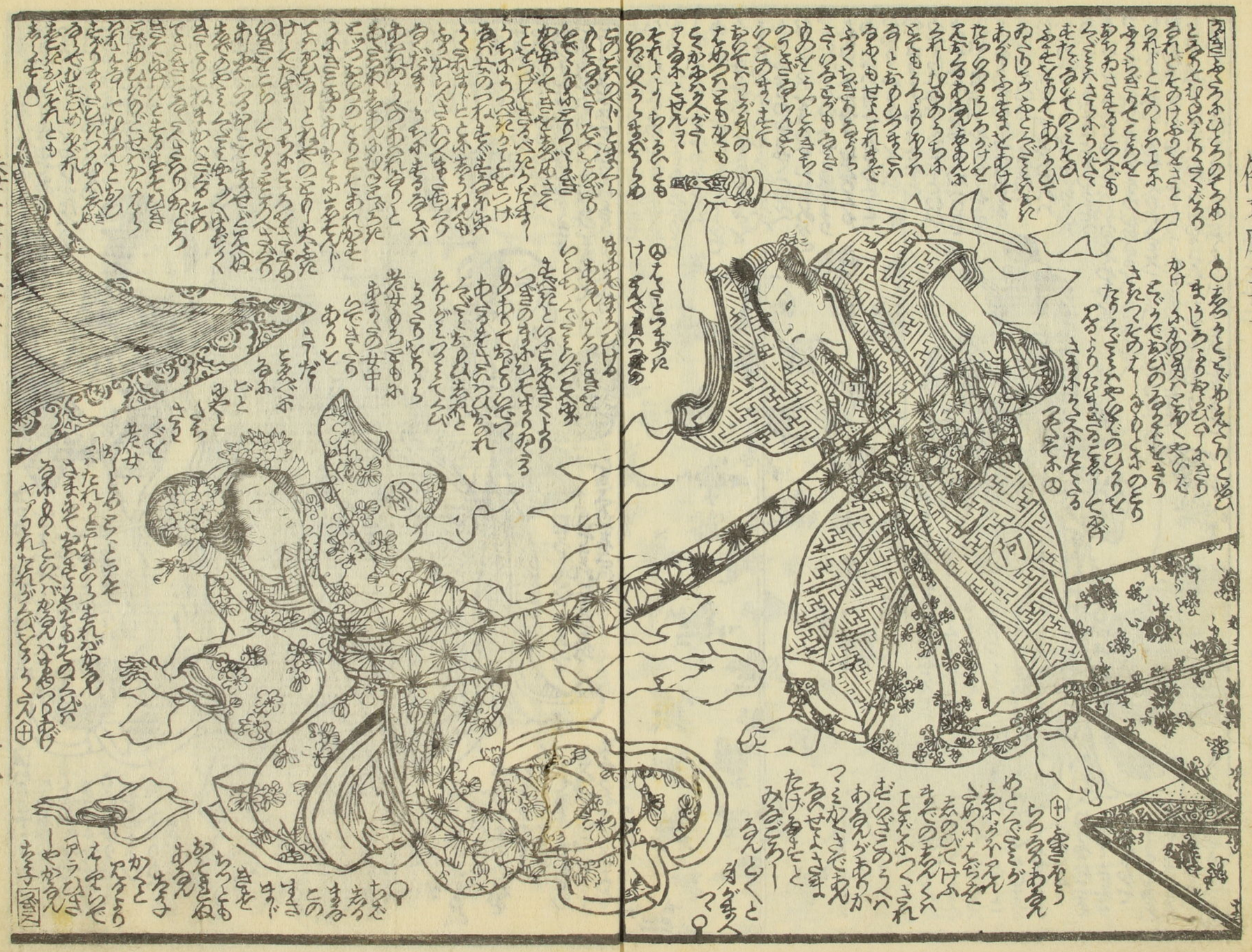
一壽秋亟

国清

三重はん

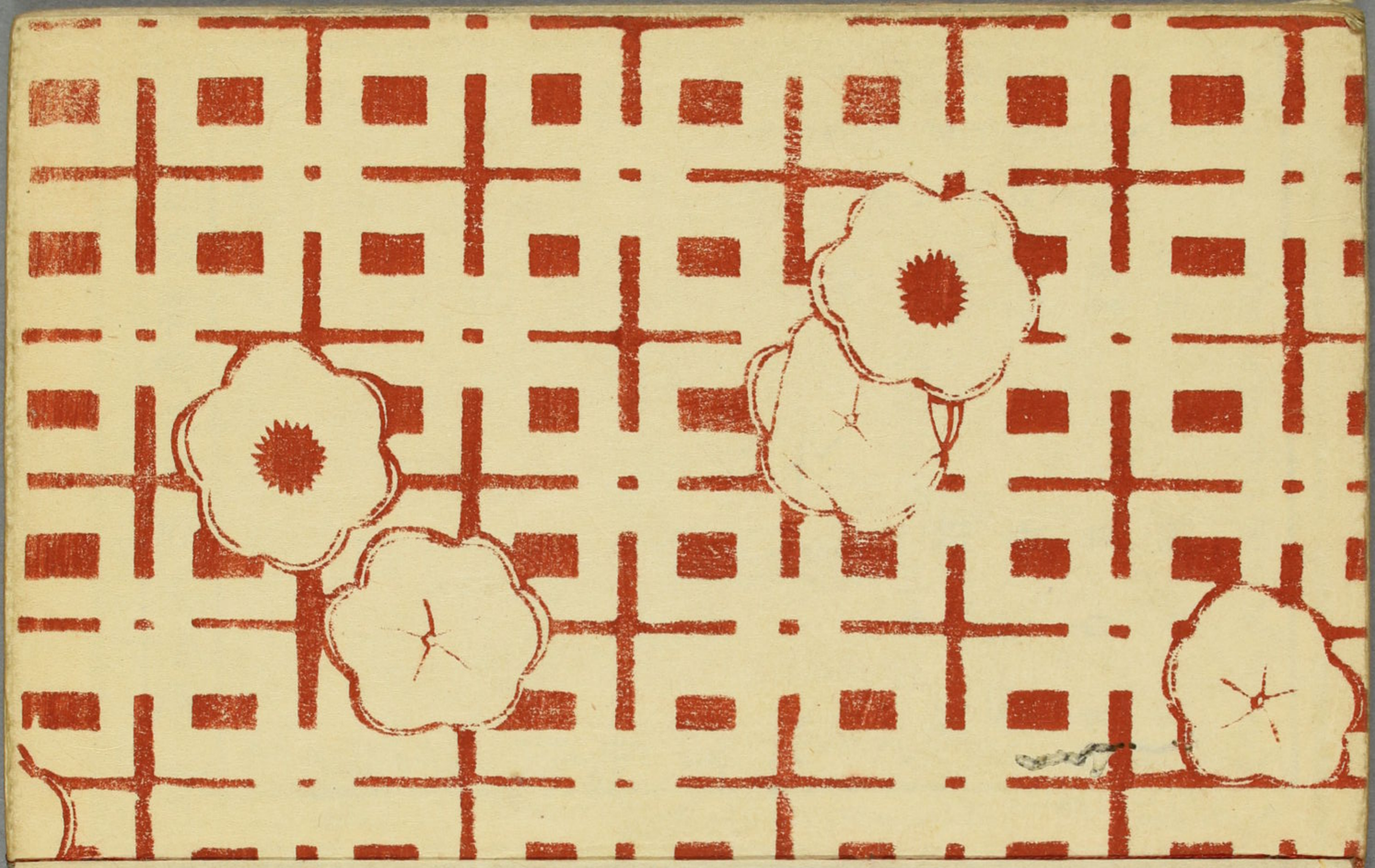






嘉永八年乙卯春新板目録

倭文庫出世双六	万亭應賀作 一陽齋豊國画	
春の手遊 将棋双六	同作 歌川貞房画	
男女振合 役替双六	当年の流行 同作 一陽齋豊國画	
武家奉公出世双六	同作 同画	
奥奉公出世双六	同作 同画	
極上摺 擬百人一首	百枚揃 一陽齋豊國画 一勇齋國芳画	
重榮御江戸繪圖	奉書四枚半續	
端唄さく海の竹	小本上中下の三冊ホ物語ろのもくろくを あつあつ〜びホ物くとかくこころ〜ホ をちこ〜そ〜ひくろさころくとのかくこころ	



千家方言

やまとあんと

五編

上州屋板

國會